

陽の里

発行 平成14年5月15日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター

サンビレッジ

No.78

2002年 **テーマ** 言語聴覚学科開設にあたって



▲デイサービスご利用の山本さんと言語聴覚士 神谷

**言語聴覚学科開設にあたって
「その人らしい生活」を支援できる言語聴覚士に**

サンビレッジ国際医療福祉専門学校 総学科長 藤田 菊江
平成14年4月から、サンビレッジ国際医療福祉専門学校に言語聴覚士（S.T.）を養成する言語聴覚学科が仲間入り（開設）しました。岐阜で初めて誕生したS.T養成校です。

言語聴覚士という職業をご存じないかたもいらっしゃるでしょう。国家資格が出来たのは平成11年、有資格者は全国でまだ5、600人あまりで、同じリハビリテーション職種であるPT（理学療法士）やOT（作業療法士）に比べて数が少ないのが現状です。言語聴覚士の業務は、「聞く、話す、食べる」という人間の生活にとって大切な機能への働きかけです。

学生は教室で学ぶだけでなく、本校の特色であるサンビレッジ新生苑での学びを生かし、障害を持つお年寄りや障害児・者に優しい支援の手を差し伸べられるようなS.Tを目指します。

現在S.Tの多くが、医療サイドで働いており、地域生活を支えるリハビリテーションスタッフに加わって働いているS.Tは少数です。介護保険制度の中での位置付けが不十分なためです。

21世紀のリハビリテーションは、「その人らしい生活をするために」という視点での援助の大切さが叫ばれています。

1期生が卒業する頃には、S.Tがその専門性を発揮し活躍できる場が広がり、必要な人が必要なときに必要な場で必要な援助が受けられるような制度が充実していることを願ってやみません。

言語聴覚学科を開設して

社会福祉法人 新生会
理事長 石原美智子



姉妹施設であるクイーンエリザベスセンター（以下QEと略）の研修から帰国した施設長の報告を聞いていてフツと気になる言葉があった。それは「嚙下」である。

QEでは口から食事が取りにくい状態の人に言語聴覚士（ST）と栄養士で訓練をして経口的摂取を可能にしているという。STの講義を聞いてサンビレッジのお年寄りの状態を思い浮かべたという。

私はそれまで言語聴覚士はその字で書かれたごくく言葉と聞くことと思込んでいた。嚙下を専門に扱う

分野という認識がなかったのである。障害が重度になると経口的な食事の摂取は困難になる人がある。しかし、介護者は何とかして自分の口から食事をとって欲しいと涙ぐましい努力をしている。それは私たちが口から食事をとるからこそ味も舌の感触も分かるからである。お年寄りにも最後までそのような生活を送って欲しいと願うからこそ、神経を集中させ、時間をかけてお年寄りの口へ食事を運ぶのである。

サンビレッジ国際医療福祉専門学校は既に2年生の介護福祉学科と4年生の作業療法学科がある。この学校は高齢社会に向けて生活の質を高める支援が出来る専門家を育成する目的で設立したのだが、これからの社会に言語聴覚士は必要不可欠な専門家であるという思いが沸々と湧いてきた。岐阜県には一校も言語聴覚学科のある学校はなかった。

やろう!!やらなければならぬ!!

優秀な教員や実習施設を見つけてくれるスタッフ、書類を整備できる職員に恵まれ、決断をしてから実に順調に推移し、厚生労働省の監査も無事終了した。

平成14年4月、言語聴覚学科は1期生を迎えスタートした。3年後の春には社会に国際的な視点に立った言語聴覚士を送り出せることを楽しみにしている。



▲ティータイムのひとつ（オーストラリア）



▲食事前の団らん（オーストラリア）

「特別養護老人ホームで働く言語聴覚士」

サンビレッジ新生苑
言語聴覚士 神谷明子

特別養護老人ホーム(特養)にはことばがしゃべりにくい方、耳の聞こえが悪い方、食べ物の飲み込みが悪い方、いろいろな方がみえますが、言語聴覚士(S.T)はそのようにコミュニケーション障害のある方、摂食障害のある方々のリハビリテーションを担当しています。



▲風景画に挑む山本さん



そのような障害があると普段の生活がどんなことになるとかという朝起きて爽やかな朝を知らせてくれる「おはよう」と言うヘルパーの声を聞いたり、仲間に挨拶したり、食事をしたりという当たり前の事が簡単には出来なくなります。そんな世界に生きていたら毎日になにかとよりとしてきそうですが、そんな中でもいきいきと生活出来るようにお手伝いするのが私の仕事です。

例えば言いたい事は山ほどあって喉のところまで出掛かっているのに思うように話せない失語症という病気をもっている方がいます。その方とは長い付き合いなのにことばを使って会話をした事はほとんどありません。でも、身振りや手振り、絵やシンボルを使ってなんとかコミュニケーションをとっています。S.Tはまず、言葉が使えないことで仲間がつくりにくいその方の気軽な話し相手としての役割を果たしていく事から関わ



り始めました。その内その方はコミュニケーション手段として練習していた絵を趣味とし始め、周りの人からすごい人だと認められるようになりました。そこで自信がついてきたのでしようか、今度は五目並べや将棋の仲間に入り始めました。最初はS.Tも一緒に参加して仲間とコミュニケーションを取る時のお手伝いをしていましたが、今では仲間のほうがその人の言いたいことがよくわかるようです。このように言語障害者も含めて、その人を良く理解して、どのようにしたらその人のもとと持っている力を発揮して生活をしていけるか、試行錯誤を繰り返しながら、日々奮闘しています。

「言語聴覚士って
どんな仕事?」サンビレッジ国際医療福祉専門学校
言語聴覚学科教員 園田多恵美

ある日突然!気がついたら病室だった。手足が動かない、思うように言葉が話せたのだらう。その日から、本人はもとより家族の生活が一変してしまう「失語症」及び「構音障害」とは一体何でしょう。



▲桜の下で楽しいひととき

失語症とは、脳卒中や交通事故の後遺症で、脳の中の言語中枢が損傷を受けておこる症状で、今まで使っていたことばの機能(聴く・話す・読む・書く・計算)が低下し、コミュニケーションに支障をきたすものです。具体的には、耳は聞こえるが、ことばとして理解できない。目の前にある物が何かは分かっているのに、ことばとして出てこない状態です。失語症をイメージするには、周りのことばが突然、外国語になった状態と考えるといいかもしれません。

一方、「構音障害」は、手足の麻痺と同様に、舌や口唇などに麻痺がおこり、きれいに発音できない状態をいいます。単に、ことばの障害だけでなく、同時に口腔機能にも運動障害がおこり、食べ物をうまく取り込めなかったり、飲み込めなかったり、又、むせてし

まったりする、嚥下障害がおこることもあります。このような、ことばによるコミュニケーションに障害をもつ方や、嚥下障害のある方々に対して、言語聴覚士は能力を評価し、残された機能を生かしつつ、より良い生活が出来るように、又、身体の不自由なことへ、心理面においても、寄り添って援助することを役割としています。

募集要項

学 科	言語聴覚学科
定 員	30名 男・女
修 業 年 限	3年
取得資格等	言語聴覚士国家試験受験資格

■入学選考:高校推薦・社会人推薦・特別選抜・一般

■受験料:25,000円

詳しくは

社会福祉法人 新生会

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

〒503-2413 岐阜県揖斐郡池田町白鳥104番地

TEL.0585-45-2220 FAX.0585-45-0188

http://www.shinsei-kai.or.jp/ E-mail:college@shinsei-kai.or.jp

「愛のともじび基金」から
車輛を頂きました

サンビレッジの毎日のデイサービスには必ず必要となる車輛。その車輛をこの程「愛のともじび基金」から頂くことに成りました。大切に、楽しく利用させて頂きます。有難う御座います。